理事長あいさつ

公益財団法人 岩手県スポーツ協会
副会長兼理事長　谷　藤　節　雄

【国民スポーツ大会　冬季は優勝 “4”】

第 79 回国民スポーツ大会冬季大会では、スケート競技 3、スキー競技で 1 の優勝者を輩出し、全体でも前年を上回る入賞数と天皇杯得点を獲得してくださいました。現地では、多くのスタッフが選手を支え活躍していました。ワックス等の機材調整担当、トレーナーによるリカバリーケア･応急処置･ドーピング対応等のコンディショニングサポートは、選手の能力を最大限に引き出してくれました。『チームいわて』の輪に感動しました。この盛り上がりを滋賀での本大会に繋げ、目標である天皇杯 20 位台、入賞競技団体数 20 団体を達成し、多くの種別（成年・少年）が入賞してくれることを期待しています。

反面、課題として少年種別の競技人口減少という問題が浮き彫りになってきました。

【競技人口減少の現実】

本県の少子化については、次のようなデータがあります。現在の中学 1 年生の出生者は、約 9 千名でした。令和 6 年の出生者は、約 5 千名ですから、12 年後、中学 1 年生は今の 56%、約半数強になってしまうということです。言い換えれば、たったの 12 年で、中学生の部員が半数になる、団体競技のチーム数が半分になる、現在 20 チームあるものが 10 チームになってしまうということです。

次に、部活動加入率についてです。本県では、中学生の部活動加入率 100%の時代が長く続きました。全員加入のルールがあり、部活動を通して活力のある学校生活がつくりあげられてきました。現在は、国の施策により部活動が生徒の自主的・自発的な参加によることとなり、活動の場を地域に求める生徒も多くなってきました。学校部活動が任意加入になって、加入率が減り、競技人口が減ったという話をよく聞きますが、そうではなく、（中学校からのデータ提供が必要ですが）部活動＋地域活動での加入率を検証する必要があります。私達は、地域でスポーツ･文化芸術活動ができる機会･選択肢を確保し、「何もしない生徒をつくらない」環境にしていかなければならないと思います。

【地域展開　競技団体としての準備】

中学校部活動の地域展開については、国･県の方針を受け、それぞれの地域の特色や状況に応じて各市町村が取組んでいます。その受け皿として期待されているのは、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ少年団、競技団体クラブです。少子化の危機を共有し、総合型クラブや少年団に続いて、競技団体クラブが整備され、高等学校につなぐことが少年の強化にもなります。

具体的には、①県の競技団体が市町村の競技団体等と連絡･調整しながら、競技団体クラブの立ち上げに向けた構想をねり、準備すること。②実施のタイミングについては、今ある学校部活動の状況を考慮しながら、（ア）学校部活動（土日の活動は一考）→（イ）地域連携（合同チーム、外部指導者の活用）のクラブ→（ウ）地域クラブへと進みますが、統合によりチーム数が減ることで、生徒の活動の場や大会出場の可能性がせばまること等がないよう、特にも移行期には生徒のための活動環境を考える必要があると思います。

【スポーツ少年団の役割　目的と目標】

地域展開の中でスポーツ少年団活動は、今後更に注目されることになります。スポーツ少年団の理念は、①一人でも多くの青少年にスポーツの歓びを提供すること。②スポーツを通して青少年のこころとからだを育てること。③スポーツで人々をつなぎ、地域づくりに貢献すること。とあり、これこそがスポーツの「目的」であることを再認識する必要があります。

私達は、この「目的」を達成するために、身体的成長に加えて、協調性や創造性等豊かな情操を養うための「目標」を設定しています。スポーツを通して地域で子どもの成長を支え、生涯を通じてそのスポーツを続けていける環境を作っていかなければならないと思います。

地域展開については、皆さまのからのご意見を多数いただきながら、進んでいくものと考えます。

【つぶやき】

前号で運動会のスタートを英語にしてはどうか？と記しました、早速、「やってみます。」とのご連絡を数件いただきました、ありがとうございます。スタート時は “ お静かに ”、競技のマナーも伝えていけたら素敵だと思います。